

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

11年11月現在 返葉大会 (合)	11年11月 発行 編集	11年11月 (328号) 千 葉 岳 関 白 井 岳 麗
地区 地区 地区 計	会員数 130名 183名 31名 344名	

行事予定

○碩心会初吟会

日時・平成12年1月9日(日)10時より

場所・逗子会館 1階

会費・三千元

申込後のキャンセル、追加は1月5日(火)迄

に左記へご連絡下さい。

企画部 星野輝岳 TEL:0468-71-6517

〃 田中明岳 TEL:0468-73-2576

平成12年初吟会の担当支部

真澄・沼間・幸和・桜山支部

余興

一組3分程度で多数お申し込み下さい。

注意事項・当日はネームプレート着用

お車での来場はご遠慮下さい。

(役員以外)

○県高段者審査会

日時・2月13日

場所未定

○県高段者審査会

日時・2月20日

場所未定

会員増強について

逗子地区長 村田 岳 瀨

会員増強の話がいつも話題にのぼり、会長以下頭を痛めております。

先日「新聞社のファミリニューズで色々な広告を出してくれますよ」というアドバイスを得て、早速原稿を書き、先ず逗子地区の教室の場所と曜日、時間、指導者の名前、電話番号等を記入、毎日新聞逗子販売所にお願いたしましたところ、直ぐ引き受けて地域のコミュニティペーパーの情報広場・掲示板の欄へ載せてくれました。

あまり期待はしていなかったのですが、ニューズを見たという方から電話があり、お稽古を始められたそうです。

言葉だけでなく行動に移せば何とか道は開けるのではないかと思います。何か良い案があれば直ぐ実行してみましよう。町内の広告板を利用するのもいいかと思えます。

皆さんで漢詩の良さ、声を出すことの楽しさを知らせてあげましよう。
指導者は更に総ての点において勉強しなければいけないと思う毎日です。

第百十回全国吟道大会参加

和やかで楽しかったバス道中（第一日目）

中村 岳 愛

全国吟道大会に参加の碩心会員8名は、逗子市役所前でバスを待ち、7時30分出発。足柄SAにて4台のバスが合流、私達2号車は、聖吟会24名他が加わり総勢37名となり、一路名古屋に向って出発。松井車輔長にお任せして、長いバス道中を、周囲の風景にみとれながら、又おしゃべりしながら、そして用意しておいた歌のプリントを皆さんに配布、懐しい歌のかずかずをみんなで合唱しながら、車は楽しく進みました。

そして日本平到着。ロープウェイで海拔306米の日本平と、徳川家康公ゆかりの久能山へ。二つの山頂を結ぶロープウェイからは、駿河湾を行き交う大小の船、遠く伊豆の連山、御前崎等を望み、空中散策の途中、屏風谷と呼ばれる断崖が眼下に広がり、すばらしい風景でした。そして東照宮に到着。色あざやかな壮麗な建造物は、家康公の遺言で二代将軍秀忠公が建立したという。境内にある博物館には、家康公はじめ歴代将軍の遺品約二千点余

りが所蔵されているという。

日本平パークセンターで昼食をすませ登呂遺跡へ。弥生時代の住居跡として知られ、遺跡公園となっており、博物館には農具、土器など出土品が展示されていました。

バスに戻り、又々楽しい歌やおしゃべりで浜名湖を眺めながら名古屋に向い、一泊目の長島温泉に到着。その夜は明日の大会にそなえ、ゆつくり温泉につかり、疲れをいやして眠りにつきました。

全国吟道大会当日（行程第二日目）

副会長 松井 正 岳

昨夜は大会に備え早めに床に就いたが、普段の生活とのリズムの違いか、朝4時頃には目が覚めてしまった。窓からまだ暗い外を眺め夜の明けのを待った。8時にバスにてホテル出発、40分後には大会場に到着。会場前には全国から集まった吟友達で一杯だった。

久しぶりに会う幾人もの顔見知りと再会を喜びあった。9時30分大会の幕があき中部地区代表の歓迎の辞に始まる。昨年の入賞杯返還、そして長谷川理事長が御製謹詠、コンクール審査員紹介後一般合吟へと流れよく進む。トップは地元愛知連合会の84名の大合吟。

全国大会ならではの感動であった。次々と

続くどの合吟も大変立派なものばかりだ。一般合吟の後、コンクールに先立ち会場入場。

全国から参加した90団体の会旗が場内の拍手で続々と行進するところは見事でした。合吟

コンクール28チームの競吟は審査員泣かせの出来栄でした。昼食後に行なわれた5名の入賞者による優秀吟者吟詠は客席を魅了した。

式典では理事長挨拶、来賓祝辞そして功労者表彰、続く連吟コンクールは25チームの競吟とトイレにも立てないようなプログラムだった。

一般合吟に我が神奈川から男子50名の大合吟、女子も50名の大合吟二番で場内を沸かせた。合吟コンクールだったら優勝だったと、軽口をたたく程の出来栄え、神奈川の名を印象づけたのだと思います。

プログラムの最後は地元会員による構成吟で大会最後を飾るにふさわしいアトラクションだった。

コンクールの結果発表は残念ながら神奈川は入賞を逃しましたが、代表で出場したチームに拍手を送りたいと思いました。

来年は福岡大会とのこと、次の参加を約束して会場をあとにした。

今夜の酒はうまいぞ

＃

全国吟道大会参加（行程第二日目）

上村 岳 章

名古屋市公会堂で行われ、晴天にもめぐまれ素晴らしい大会になりました。

昨年の北海道から南は沖縄までの集合に対し感謝の言葉に始まりました。「君が代」が国歌として正式に認められてからの初めての大会で国歌斉唱に唱和し心改まる思いでした。

理事長の御製謹詠で始まり一般合吟、会旗入場、合吟コンクール、式典、連吟コンクールと進みいよいよ神奈川地区の大合吟、男女三題共に盛大な合吟でした。

主催者計画の構成吟の当地風な構成は大変参考になり、神奈川県本部四十五周年記念大会を控える私達にとって改めて大会の運営の大変さに思いを馳せ、決心を新たにしました次第であります。

大会も無事終了しコンクール結果発表、神奈川地区さがみ岳風会から連吟の部で、副理事長賞の榮譽に浴しました。

吟行会目的のもう一つである親睦会は長良川のほとりのホテルでの楽しいひととき、白井先生、中村先生の詩舞で始まり、カラオケ

民謡やダンス、寸劇などでいつも通り和やかな雰囲気の中で飲んでさわいで大いに明日への英気を養いました。

第三日目は熱田神宮に参拝する。御神体は草薙劔で天照大神、日本武尊が祀られている元官幣大社であった。帰路の浜名湖では、舟で湖を一周し秋気を満喫する。東名道路は大渋滞であったが旅の無事であったことに感謝。

序と吟道精神について

吟秀 大屋 正 岳

いつも教本を手にして巻頭にある序文と吟道精神を読んで、名文であると感ずると共に教えられることが多い。吟道は申すまでもなく詩歌の朗吟の道であり、ただ詩歌を小声で口ずさむのではなく、高い声で吟ずることが肝要である。勿論その詩歌も選ばれて教本にのり、すぐれた古今の雄渾正大なものだければならない。詩歌を朗誦吟詠すると同時に、その作者の意中を推量し、感情に同化して、一体となるように心掛けねばならないと思っている。格調の高い詩歌の朗吟によって、自己の心を高め魂を磨き、吟道精神の高揚に努めたいものである。

吟道精神は前段、中段、後段と三つに区切られており、前段の中の私には飽満を斟酌しとあるのは如何なる意味なのか考え、ただ単純にあきるまで食することをひかえめにする」と解釈した。これは祖宗範木村先生が漢詩の吟じ方の一番後の方にある、食後三十分以内の高吟は避けた方が良く、充分に声を立てるのは満腹では立たぬと述べられているので、それを指しているのかと思ひ了解した。

中段の吟道は気を養うの道なり、人の生や気なり、気竭くれば死す、気は以て養わざるべからず、とあるがこれは非常に大切な文であると思う。私も人の生命は気力で保たれるものであると信じている。よって気力を吟道によって養わなければならないという教えを守りたいと思っている。

後段の正風（りく）六合（あま）に洽（あま）く、一声士気高し。吟じ終りて清風起る、一吟天地の心。この後段の文は全く同感そのものである。

俳句

岩崎 岳 恵

薄れつつ暮色に消ゆる雁の棹

塚裏に松笠一つ秋の冷え

仏塔へ女坂より時雨けり

逗子A教場を顧みて

逗子A 舟渡 岳船

碩心会の本部を兼ねた逗子A教場は、歴代会長の熟練された岳風流統を基に、早や三十余年の歳月が過ぎ、今は指導の先生も多く総伝、皆伝の方も増え、逗子銀座裏の集会所で毎週木曜日の夜に練習を行っている。

千葉岳関先生を始め師範の先生が多数の教場を担当され、新しい制度の下に会員増強や指導に力を投入されておられます。

逗子A教場は途中で異動もなく、支部長渡辺岳峰先生始め、総伝9名、皆伝以上5名、在籍14名の現状維持でこの処平穩無事であり、近親の人に勧誘を呼び掛けている昨今であります。

終戦後教育方針も変り今の若い人たちに理解してもらい、幼児の頃から公德心を説くべきである。

在籍の先輩と共に大会を前に練習に余念ない毎日、生涯学習と思つて励んでおります。

盛年不重来 一日難再晨

及時當勉勵 歲月不待人

第3回葉山町文化祭詩吟舞発表会

堀内E 西岡清岳

秋晴れのもと11月3日(祭)葉山町文化祭が午前は三曲、午後一時より詩吟、詩舞が福祉文化会館に於て開催されました。

第一部から五部までに独吟、連吟、合吟、詩舞と盛沢山に構成され、日頃の精進の成果を披露されました。

構成吟に「詩仙李白」を李白の詩情豊かな詩に流れる様な吟、舞、書。

もう一つ「葉山の海辺を北から南へ」と身近かな葉山をテーマに大いに目を楽しませていただきました。

ご高齢にもかかわらず出場して下さいました方々。味わいのある吟をきかせていただき私の楽しみでもあります。

石川響風さんの尺八は吟詠詩舞に華をそえていただいております。

最後に加藤岳洵先生の閉会の言葉で幕を閉じました。

馬肥ゆる

歳時記にもある「馬肥ゆる」ですが古来中国では、騎馬民族が肥えた馬に乗って来襲することを、警戒する言葉であった。

騎馬民族の住居は、中国本土の北に広がる広大な草原。春から夏にかけて、一面の草の中で、腹いっぱい草を食べた馬は秋になると丸々と肥えている。そこで、騎馬民族は秋になると、肥えた馬にまたがり、弓矢を携え、南へ糧を求めておしよせるのである。

入会

97 隈園 晴夫 横須賀市西逸見二一六五

再(吟秀) ☎〇四六八一二四一四三七三

512 沼田登美子 葉山町下山口二〇五〇一七

(一色) ☎〇四六八一七五―三九七〇

退会

220 荒谷燦岳(若葉) 242 鈴木叡風(堀内D)

377 佐野雅山(吟秀)

住所変更

84 田中明岳 逗子市新宿四―13―13―14一六

☎〇四六八一七三―二五七六

編集後記

晴天に恵まれた全国大会の寄稿をいただきありがとうございます。参加した一人として良い思い出になりました。来年は10月15日福岡です。多勢で参加しましょう。

本年最後の大会となる大船地区温習会は12月4日、掉尾を飾る会として頑張ります。